

# 農作物技術情報 第3号 水 稲

発行日 平成29年 5月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆分げつ発生を促進させるため、天候に応じてこまめに水管理をしましょう。
- ◆目標とする茎数が確保されたら、すみやかに中干しを行いましょ。
- ◆取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分しましょ。
- ◆水稲初期害虫の発生が早まっています。直播栽培では出芽直後の食害に注意しましょ。

## 1 生育概況

- (1) 県全体の田植え進捗率は62% (5月19日現在) であり、直近3ヵ年と比べもっとも進みが遅くなっています。しかし、5月20日以降は好天が予想され、田植え準備も進んでいますので、適期内 (5月15日~25日) に田植え終期を迎えると見込まれます (表1)。
- (2) 田植え時期の気温・日照時間とも平年を上回り、活着は概ね良好です。

表1 県内農業地帯別田植状況 (各農業改良普及センター調べ、5/19現在)

地帯名	同時期				田植え時期 (月/日)								
	進捗率 (%)				本年 (月/日)			平年			平年差 (日)		
	本年	H28	H27	H26	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	37	52	58	43	(5/16)			5/16	5/20	5/26	(0)	-	-
北上川下流	76	81	83	80	(5/9)	(5/14)		5/11	5/15	5/21	(-2)	(-1)	-
東部	52	73	83	68	5/11	(5/17)		5/11	5/16	5/22	0	(+1)	-
北部	7	10	24	21				5/19	5/24	5/27	-	-	-
県全体	62	70	74	68				5/12	5/17	5/23	-	-	-

注) 1 平年値は10か年(平成19~28年)の平均値。 始期: 10%終了、盛期: 50%終了

2 括弧内の数値は未確定市町村があるため推定値。

## 2 水管理 (分げつの促進と中干しの実施)

### (1) 分げつの促進

- ア 好天時は浅水とし、水田水温や地温を高めて分げつ発生を促します。
- イ 最高気温が概ね15℃以下の低温時には、葉先が出る程度の深水とします。特に県北部など田植えから間もないところでは、活着や初期生育を促すようきめ細かな水管理をしてください。
- ウ 冷水のかかる水田では、ポリチューブなどを利用して積極的に水温の上昇をはかりましょ。
- エ 生わらを施用した水田では、気温の上昇とともにわらが分解して酸素不足になります。水持ちがよい水田では一時落水し、新しい水と入れ換えてください。ガス抜きと雑草防除をかねた中耕も効果的です。

### (2) 中干しの実施

- ア 目標とする茎数が確保されたら中干しを行いましょ。中干しは土壌の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかり、無効分げつの発生を抑制します。
- イ 県内の主要うるち品種 (ひとめぼれ、あきたこまち、いわてっこ等) の目標茎数は、6月下旬に400~500本/m<sup>2</sup>程度 (株あたり茎数20~30本程度) を目安とします。
- ウ 中干し期間は7~10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安とします。
- エ 灌水や排水を容易に行うため、中干しとあわせて作溝を行うとより効果的です。
- オ 中干し終了直後は間断灌漑とし、その後常時湛水とします。以後は低温でない限り、幼穂形成期までは間断灌漑とします。

### 3 効果的な除草剤の使用

除草剤を散布する場合は、以下のことに気をつけて除草剤の効果を十分に発揮させましょう。

#### (1) 散布時期

雑草の種類や葉齢を良く確認して、適期に除草剤を処理しましょう。散布適期内の早い時期に散布しましょう。

#### (2) 散布後の水管理

十分な湛水深を確保してから除草剤を処理しましょう。止水期間は7日間を遵守し、その間は田面を露出させないことが大切です。

### 4 病害虫防除対策

#### (1) 葉いもち：補植用取置苗の早期処分対策

ア 水田内や畦畔際に放置された取置苗は、いもち病の伝染源になる恐れがありますので、直ちに処分してください。

取置苗をよく観察し、葉いもち病の発生を確認したときは、水田内の葉いもち病発生状況を観察しましょう。

イ 葉いもち予防の水面施用粒剤施用時期は6月20日～25日が適期です（移植時にいもち病予防箱粒剤を施用した場合は必要ありません）。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用しましょう。

ウ 葉いもち予防水面施用粒剤を施用する前や箱施用剤を使用した場合でも、圃場をよく観察して葉いもちの発生が見られた場合には、直ちに茎葉散布を行いましょう。

エ QoI 剤（嵐、オリブライト、アミスターエイト）は耐性菌の発生リスクが高く、すでに隣県の宮城県で耐性菌の発生が確認されています（平成27年2月18日、宮城県病害虫防除所）。嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤、アミスターエイト剤の本田使用は避けましょう。防除効果の低下が疑われる場合は、病害虫防除所又は農業改良普及センターに連絡ください。



写真1 圃場に放置された取置苗

#### (2) 斑点米カメムシ：発生源対策

ア 斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などで繁殖します。

イ アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵のふ化（卵がかえること）盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的です（平成19年度研究成果）。

ウ アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期の平年値は5月末（県南）～6月中旬（県北・西和賀）ですが、今年は平年よりやや早まることが予想されます（表2）。ふ化盛期を目安に地域全体で草刈りを行い、アカスジカスミカメの密度低減に努めましょう。

表2 アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期（予測）（H29病害虫防除速報No.3より）

年次	一関	江刺	北上	大船渡	盛岡	二戸	軽米	宮古	松尾	遠野	湯田	久慈
平成29年	5/28	5/29	5/29	6/4	6/3	6/8	6/10	6/9	6/8	6/10	6/15	6/14
平年	5/30	5/31	5/31	6/8	6/5	6/10	6/12	6/14	6/10	6/11	6/16	6/19
(参考)平成28年	5/24	5/24	5/24	5/29	5/26	6/1	6/1	5/31	5/31	6/5	6/8	6/7

\* 予測月日は重久の報告（発育零点 12.1℃、有効積算温度 105.7 日度）に基づき、5/15まではアメダス日平均気温実況値を、5/16以降は日平均気温の平年値（10年平均）を用いて算出。

※県北部等は今後発行される予定の情報（5月下旬，発生予報第3号）で最新の予測情報を参考にしてください。



写真2 畦畔に群生するイタリアンライグラス



写真3 アカスジカスミカメ成虫

## 5 直播栽培（鉄コーティング種子による湛水表面播種栽培）の本田管理

### （1）本年の出芽状況と本田管理のポイント

- ア 本年は、播種後出芽までの気温が平年より高く経過しており、県内各地とも出芽は良好です。
- イ 直播栽培の出芽後の本田管理作業は、基本的には移植栽培に準じて行います。出穂期や成熟期など生育ステージが移植栽培に比べて10日～2週間程度遅くなるので、この点に注意して作業計画を立てましょう。
- ウ 下位節からも分けつが発生するため、茎数が過剰になりやすく、倒伏の一因になるので、移植栽培より強めの中干しを実施し、地耐力の確保に努めましょう。

### （2）中干し

有効茎（穂になる分けつ）が確保されたら、中干しを確実に実施し、地耐力の確保に努めましょう。

### （3）病虫害防除

- ア 粒剤の水面施用または茎葉散布による防除が基本となります。
- イ 散布する薬剤の選択は、岩手県農作物病虫害・雑草防除指針（移植栽培）を参考としますが、飼料用米や稲発酵粗飼料（稲WCS）では農薬の使用に制限がありますので、農業改良普及センター等に確認のうえ使用してください。
- ウ 葉いもち病防除  
初発10日前（6月20日～25日頃）の予防粒剤の水面施用を基本とします。  
移植やカルパー土中播種に比べて生育ステージが遅いので、7月20日頃（初発が早い場合や多発年は7月15日頃）から本田を巡回し、発生が目立つ場合は直ちに茎葉散布を行います。
- エ 穂いもち病防除  
予防粒剤の水面施用「出穂20～10日前頃」、または出穂直前と穂揃い期の2回の茎葉散布を基本とします。
- オ 初期害虫防除（イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ）  
移植栽培では大きな被害に至らない初期害虫ですが、直播栽培では特に出芽直後の食害が大きく影響する場合があります。圃場内をよく観察し、発生が見られる場合は粒剤の水面施用や茎葉散布を行いましょう。

**春の農作業安全月間実施中！** [ 4月15日 ]  
[ ~6月15日 ]

いつもの慣れが落とし穴 急がずあせらず 農作業安全  
「山火事警戒宣言発令中」

次号は6月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。